

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 金沢市立犀川小学校

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中高一貫）  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 920-1302  
石川県 金沢市 末町2の148

E-mail saigawa-e@kanazawa-city.ed.jp

Website http://www.kanazawa-city.ed.jp/saigawa-e

幼児児童生徒数 男子 117名 女子 110名 合計 227名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

本校は金沢市を横断して流れる犀川の上流域に位置し、校区は広く、豊かな自然環境に恵まれている。また、文化遺産ともいえる「辰巳用水」や「寺津用水」に代表されるように、水利に恵まれ、農業を中心として林業や石材業などが盛んな地域として発展してきた。金沢市の水をまかなう「末浄水場」「犀川浄水場」も学校近くにある。

ユネスコスクールの認定を受けて、「私たちの町『犀川』そして『金沢』を知ろう！～ふるさとを愛することは、ふるさとを知ることから～」をテーマに、地域に根ざした体験的な学習を通して、持続発展教育の実践に取り組んでいる。

### 3年 犀川新発見プロジェクト

校区探検、地域伝統の太鼓体験、公民館見学などを通して、今まで知らなかった犀川校区の文化・人・歴史などについて知り、よさを見つけることができた。また、これらの見学・体験や地域行事への参加を通じて校区の人々と仲良くなり、心のつながりの大切さが理解できた。さらに、和菓子作りを体験することで、金沢のよさを見つけることもできた。

これらの学習活動から、犀川地区や金沢を「ふるさと」だとする意識を育むことができた。

#### 4年 犀川探検プロジェクト

校区を流れる犀川の自然体験や水質調べ、また文化遺産ともいえる「辰巳用水」や「末浄水場」の見学などを通して、私達の川・犀川の良さや環境保全の大切さについて理解するとともに、犀川を源とする用水が昔から市民生活に深く関わっていることを理解できた。また、加賀友禅体験を通じて金沢の伝統文化を学んだり、ふるさと偉人館の見学を通じて金沢の偉人について学んだりすることで、金沢のよさを見つけることができた。

これらの学習活動を通して、ふるさとの特色を理解し、ふるさとを大切にしようとする意識が育った。

#### 5年 農林業体験プロジェクト

近隣の森や田での森づくり活動・米作り体験を通して、森の働きや大切さ、農林業に従事する人々の思いや苦勞・工夫などが理解できた。またこれらの活動を、地域の方々の協力を得て一緒に行うことで、感謝の心を抱くとともに、楽しく交流することができた。加えて、医王山や加賀野菜に興味をもって能動的に調べ、ふるさとを自慢したくなる思いをもつことができた。

これらの学習活動により、犀川地区や金沢の環境、文化について考えることができた。

#### 6年 金沢探検プロジェクト

第3学年から第5学年までの「総合的な学習の時間」で調べたことをまとめる活動や、犀川地区の自慢の場所や景色を見つける活動、金沢観光ボランティア「まいどさん」と一緒に金沢探検の活動を実施し、金沢の文化・人・歴史についてより深く理解することができた。さらに、自分たちを育ててくれた犀川地区、そして金沢への感謝の気持ちをもって、地域の発展のために自分たちができることを考えた。

これらの学習活動を通じ、ふるさとの良さを再発見するとともに、地域の課題や将来像に思い至ることができた。



公民館の役割について質問



辰巳用水の隧道を見学



手作業での田植え体験



「まいどさん」と巡る金沢

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

総合的な学習の時間の内容は、ユネスコスクール活動分野と照らし合わせながら、その中心となるよう計画し、教育課程に育みたい資質や能力を明記している。

また各教科の教育課程や特別活動との関連も記載し、学校教育全体において包括的にユネスコスクールとしての活動を推進できるよう工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

全校や隣接学年に向けてのプレゼンテーションを行ったり、特設の掲示板を設けて各学年のユネスコスクールの取り組みを紹介し、児童が目に見えるようにしたりすることで、学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくっている。



学習活動の成果が活動ごとに見られるように、随時掲示をしている

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

今年度は特に、地域との連携を意識して取り組み、その中で評価をいただいた。児童がこれらの方々への協力に感謝し、様々な体験活動・調べ活動を通してふるさとのよさを知り、多くの人と親しむことができたのが成果である。しかし、新しい活動内容の提案や、他小学校・他地域との交流までは広げられず、この点が課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

毎月の学校だより及び学校 Web サイトに、学年ごとのトピックスとして具体的な活動の様子を掲載し、発信した。保護者を中心に、ユネスコスクールの取り組みに対する理解が広まった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

3年生の活動では地元公民館や職能開発協会と、4年生の辰巳用水見学では地域の土地改良事務所や市役所の該当部署の方々と、5年生の米づくり体験では地元農家やJA金沢市と、6年生の金沢探検では観光協会やボランティアガイド「まいどさん」との協働・交流・ネットワーク形成を行なった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

他小学校・他地域との交流までは広げられなかった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

特に児童において、環境問題、地域の伝統文化や文化遺産、持続可能な生産と消費に関し、具体的な理解だけでなく社会的な取り組みに対する興味・関心と、それに参加しようとする意欲が高まったのを感じている。

### （3）平成 30 年度の活動計画

基本的には平成 29 年度の教育課程、及び具体的な取り組みを踏襲する。但し、新学習指導要領への完全移行を控え、ふるさとのよさをこれからも守り続けようとする思いを更に育むために、新たな具体的活動を検討、創造する計画である。また、地域との連携をさらに定着・発展させることや、ふるさとのよさをより広い範囲へ発信し、広める活動については、30 年度内に充実させる。